

「つくって伝える」学びの質的向上をめざしたルーブリック連動型

Web 教材を活用した実践報告

－第1学年 生活科【ビデオレターづくり】の授業実践－

関西大学初等部 山中昭岳

1 はじめに

今年度から完全実施となった学習指導要領では、思考力、判断力、表現力を育み、他者や社会とかかわっていく手段である言語に関わる能力の伸張を図る「言語活動の充実」が改善事項として大きく取り上げられている。言語を伴った表現活動には、スピーチや討論など、口頭・対面のコミュニケーション場面で発揮されるものと、新聞やリーフレットのように紙の上で表現されるものや、ニュース番組、CM、Web サイトやプレゼンテーションソフト上の発表資料のようにメディア上で表現されるものがある。

生活科では、具体的な活動や体験を通して得られた気づきの質を高めるために、「見付ける、比べる、たとえる」などの学習活動や、体験したことを振り返り、言葉や絵などによって表す学習活動を重視している。

本実践では、表現活動としてビデオレターづくりを行う。今まで子どもたちは、言葉や絵、動作、劇化といった方法で表現してきている。生活科においてメディア制作活動はハードルが高いものと考えられているが、入学説明会に出席する新1年生にみてもらうビデオレターを子どもたちに一から作らせたいと考え、メディア制作活動に挑戦することにした。

この実践を実施する背景として、子どもたちが直感で扱うことができるタブレット端末とメディア制作を支援する Web 教材の活用によってメディア制作を行うことができると考えた。

※ なお、本実践はパナソニック教育財団平成23年度先導的実践研究【「つくって伝える」学びの質的向上を目指したルーブリック連動型 Web 教材の開発 研究者代表：東北学院大学 准教授 稲垣忠】の支援を受けたものである。

2 実践の概要

あたらしい1年生に対して自分たちの学校を紹介するビデオレターづくりを通して、あたらしい1年生に関心をもつとともに、自分たちの入学前、そしてこの半年間のことをふりかえり、自分たちの成長や学校のよさに改めて気付くことをねらいとしている。

(1) 単元名：あたらしい1年生に
ビデオレターをおくろう

(2) 単元の目標

【生活への関心・意欲・態度】

- ・ あたらしい1年生に対して関心をもち、ビデオレターづくりに意欲的に取り組むことができる。

【活動や体験についての思考・表現】

- ・ 入学式の時の様子や気持ちを思い出したり、ふりかえったりすることができる。
- ・ あたらしい1年生がはやく学校に来たくなるようなビデオレターをつくるための話し合いができる。
- ・ 自分が伝えたい「ひと・もの・こと」だけでなく、あたらしい1年生が知りたい「ひと・もの・こと」をふまえたビデオレター

をつくることができる。

【身近な環境や自分に対する気付き】

- ・自分の成長や学校のよさについて改めて気付く。

(3) 単元構成

第1次 校ちょう先生からのミッション！！

- ・入学説明会に出席する新しい1年生にむけてビデオレターをつくるというミッションが教頭先生から告げられる。
- ・自分たちの入学説明会の頃を思い出しながら、次の時間に「なにをつたえたらいいのか」を考える。

第2次 どんなビデオレターをつくろうかな？

- ・iPadを各グループに1台ずつ持たせる。
- ・何を伝えたいのかを写真で撮影しにでかける。
- ・撮影上のルールやマナーを確認する。
- ・撮ってきた写真を見せ合い、何を伝えたいのかを全体で共有する。
- ・各グループでテーマをきめて撮る。
- ・撮影したビデオをみてふりかえりをする。

第3次 “つくつた”のわざをゲットしよう

- ・前時でみたビデオでの課題を共有する。
- ・でてきた課題を整理し、つくつた教材を紹介する。
- ・“つくつた”教材を分析する。

第4次 さつえいたい しゅつどう！！

- ・“つくつた”教材で学んだことを活かしてグループごとにテーマをきめて撮影に出かける。

第5次 へんしゅうかいぎをひらこう

- ・各グループで撮影してきた映像を一つにつなげる話し合いをする。

第6次 さつえいたいさいしゅつどう！！

- ・第5次での話し合いでてきた修正点等の撮影に出かける。

第7次 あたらしい1年生のかんそうをきこう

(4) 活用した Web 教材について

本教材は、新聞づくり、リーフレットづくり、ビデオづくり、プレゼンテーションづくりの4つのメディア制作活動を対象に、相手意識やメディアの特性を踏まえた制作上の留意点を整理し、評価の観点ごとの基準（ルーブリック）を開発している。

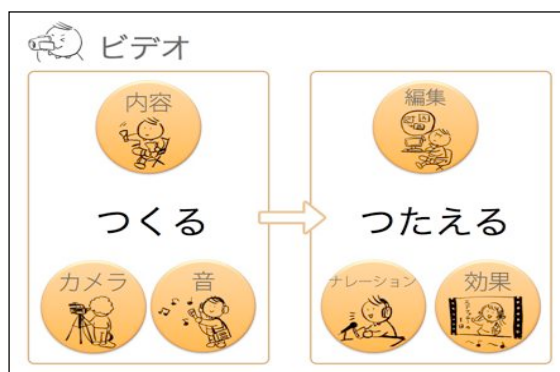


図1 ビデオに関する観点

内容	ビデオ
S すぐ使える 伝えたい内容のくわしいところ（アップ）と全体（ルーズ）がわかる映像をとっています。	せつのい ウツラみ
A よくできている 伝えたい内容がはっきりわかる映像をとっています。	せつのい ウツラみ
B だいたい 伝えたい内容についてとっていますが、どんなことを伝えたいのかわかりづらいです。	せつのい ウツラみ
C かんじわる 伝えたい内容がうつっていないか、ほかのものがめだっています。	せつのい ウツラみ

図2 内容に関するルーブリック

ルーブリックの4つの段階ごとにサンプルとなる動画があり、このサンプル動画をもとに子どもたちはルーブリックを理解していく。



図3 サンプル動画の例

以下、本教材を「つくつた教材」とする。

3. 実践の様子

教頭先生からミッションを受けた子どもたちは、何を伝えたいのかを決めるために校内探検に出かけた。iPadに慣れさせることも含めてグループに1台持たせ、何を伝えたいのかの撮影に出かけた。これにより、子どもたちが何を伝えたいのかを把握することができた。



写真1 伝えたい人“警備員さん”

撮ってきた写真の中から一人3つ選ぶことにした。グループで写真を見合い、新しい1年生を意識しながら話し合いをしていた。



写真2 何を伝えたいのかを決める

自分たちが何を伝えたいのかを決めた後、ビデオ撮影に出かけた。つくった教材を知る前の撮影である。子どもたちは、自分たちが伝えたい人やものをとにかく撮影してきた。教室に戻り、早速撮ってきたビデオをグループで見合っていた。しかし、思ったようにはとれておらず不満をもらしていた。



写真3 電車が動いている場面を撮る

子どもたちは自分たちのビデオのよくないところをどんどん語っていった。板書で視覚化し、整理していった。何がダメだったのかがわかり、どうしたらいいのだろうという場面で作った教材を紹介した。



写真4 つくった教材の分析

サンプル動画からループリックを理解していった。このとき、子どもたちは自分たちの撮影してきた映像と比べながら分析していた。このとき得たわざを活かして再び撮影に出かけた。

4. 成果

つくった教材は子どもたちの失敗経験を活かすものとなった。さらに、短時間で子どもたちはビデオづくりのスキルを習得することができた。

現在実践中のため、詳細は発表にて紹介する。